

令和 7 年 1 0 月 6 日

丹後農業改良普及センター

台風 2 2 号接近に伴う農作物等の技術対策

気象庁の予報では、10月6日3時現在、父島周辺を停滞している台風22号は、今後西寄りに進んだ後、北寄りに進路を変えると予想されています。台風が最北ルートを通過した場合、9日夜から10日未明にかけて丹後地域に接近する恐れがあります。

収穫期を迎えている農作物については、台風接近前に速やかに収穫しましょう。また、台風通過後の見回りにあたっては、気象情報を確認するとともに、ほ場の安全に十分に注意し、状況が治まってから作業をしましょう。

1 水稲

(1) 通過前

既に刈取適期になっているものは、速やかに刈り取る。

(2) 通過後

収穫前のほ場が滞水した場合は、速やかにほ場の排水に努める。

2 豆類

(1) 通過前

排水路や排水口等の点検を行う。

(2) 通過後

(ア) 大豆・小豆は、莢が地面に付いたままでは腐敗するのでその部分を起こす。その後、腐敗防止のため殺菌剤を散布する。

(イ) ほ場が浸水した場合は速やかにほ場の排水を図る。

3 野菜・花き

(1) 通過前

- (ア) 収穫可能なものは速やかに収穫する。
- (イ) ハウス栽培については、ハウス内に風が吹き込まないように、被覆資材の破損部を補強し、しっかりと閉め切る。また、資材固定金具やハウスバンドが緩んでいないか点検して締め直し、サイドが風であおられないよう固定する。

(参考) 京都府__園芸ハウス台風対策マニュアル

<http://www.pref.kyoto.jp/nosan/news/documents/detailverall.pdf>

- (ウ) 果菜類では、根痛みによる草勢低下を防ぐため、摘果により着果負担を軽減する。
- (エ) 排水路を点検し、崩れたり埋まったりしている場合は整備する。

(2) 通過後

- (ア) 滞水している場合は、速やかにほ場の排水に努める。
- (イ) 液肥（500～1,000倍）を施用し、草勢の早期回復を図る。
- (ウ) 風雨により生じる傷から菌類が侵入し、病害の発生が予想されるため、こまめに観察し、発生初期に防除する。

4 果樹

(1) 通過前

- (ア) 収穫できる果実は、可能な限り収穫する。
- (イ) 防風ネットは柱の倒壊を防ぐため、控え線や杭を打って補強する。また、ネットの破れ目を補修しておく。
- (ウ) 果樹棚は周囲線の留め金、アンカーからの控え線、吊り線を点検し、切れないように補強しておく。また、棚の揺れ止め補強を行っておく。ハウス（雨よけ含む）では、被覆が破れないように、押さえバンドで補強するとともに、ハウスごと飛ばないように、柱から控え線を張って補強しておく。
- (エ) 棚利用の果樹では、枝の誘引をしっかりと、枝折れを防ぐ。
- (オ) 徒長枝等はできるだけ整理して風通しを良くしておく。
- (カ) 排水対策（明きょ等）を徹底する。
- (キ) 収穫終了したハウスやトンネルでは強風に煽られないようにビニールを外しておく。
- (ク) 病害発生が予想されるため、可能ならば銅剤等で温帯低気圧襲来前に予防防除を行う。

(2) 通過後

- (ア) 落下した果実は、野生鳥獣を果樹園に呼び込まないよう園外に持ち出して処理する。
- (イ) 骨格枝が完全に折れた場合は、鋸等で折れ口をなめらかに切り戻して、癒合剤を塗布する。
- (ウ) 冠水した場合は、速やかな排水に努める。
- (エ) ブドウの雨よけ被覆が外れた場合は、修繕せずに片づける。

5 茶

(1) 通過前

- (ア) 傾斜地茶園では、浸食防止のため土壌表面に木材チップ等のマルチ、ほ場からスムーズな排水が行えるよう排水路につながる明渠等を設置し、周辺排水路の整備・清掃を行う。
- (イ) 被覆棚では、ほどけた被覆資材が強風を受けて倒壊する恐れがあるため、被覆資材が支柱等へ確実に結束できているか確認する。また、被覆棚を補強するアンカー等に緩みがないか確認する。
- (ウ) 茶園に防風ネットや獣害柵を設置している場合は、保守・点検を行う。
- (エ) 製茶工場では、電気施設及びガス、重油保安施設の電源や元栓を確認する。出入り口や窓の戸締まりを徹底し、煙突や排気口、換気扇等の補強・整備を行い、雨水が浸入しないように十分に点検する。浸水が予想される場合は、ショートによる火災を防ぐために、ブレーカーをあらかじめ落としておく。

(2) 通過後

- (ア) ほ場に土砂が流入した場合は速やかに取り除く。
- (イ) 病害が発生しやすいので、秋製造を行わない茶園では適用のある農薬を確認の上、薬剤による防除を徹底する。